

◎ 指示があるまで開かないこと。

(令和2年2月13日 13時55分～15時15分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は55問で解答時間は正味1時間20分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例1)、(例2)及び(例3)の問題では1から4までの4つの選択肢、もしくは1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)、(例2)では1つ、(例3)では2つ選び答案用紙に記入すること。  
 なお、(例1)、(例2)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例3)の質問には、1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
		↓		
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101		101
①		①
②		②
③	→	③
④		●

(例 2)

102 保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年(1899 年)
2. 大正 4 年(1915 年)
3. 昭和 23 年(1948 年)
4. 昭和 43 年(1968 年)
5. 平成 13 年(2001 年)

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102	①	①	
			↓					②	②	
102	①	②	●	④	⑤			③	→	●
								④	④	
								⑤	⑤	

(例 3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103	①	●	
			↓					②	②	
103	●	②	③	④	●			③	→	③
								④	④	
								⑤	●	

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

- |   |   |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	●
104	●	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

①	②
0	●
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
●	9







1 妊婦の摂取量が過量な場合に、有機水銀による胎児の健康障害が最も懸念される魚介はどれか。

1. ア ジ
2. サ ケ
3. イワシ
4. キンメダイ

2 骨盤内臓器で正しいのはどれか。

1. 基靱帯は子宮支持組織の一つである。
2. 子宮動脈は総腸骨動脈から分岐する。
3. 性成熟期女性の正常な子宮は鶯卵大である。
4. 卵巣動脈は卵巣固有靱帯(固有卵巣索)内を通る。

3 子宮頸がん検診で適切なのはどれか。

1. NILM では精密検査を勧める。
2. 子宮頸部細胞診の検体採取は吸引法で行う。
3. ベセスダシステムに基づいた分類で報告される。
4. 日本における対象者の受検率は70%を超えている。

4 受精卵の着床で正しいのはどれか。

1. 着床するのは胞胚期である。
2. 子宮内膜の増殖期に着床する。
3. 受精卵は受精後10日目に着床する。
4. 子宮内膜に接着してから透明帯が消失する。

5 胚葉由来と組織との組合せで正しいのはどれか。

1. 内胚葉 ———— 中枢神経
2. 外胚葉 ———— 平滑筋
3. 中胚葉 ———— 甲状腺
4. 中胚葉 ———— 心 臓

6 Aさん(39歳、初産婦)。妊婦健康診査で来院した。妊娠16週、単胎。身長160cm、体重56kg(非妊時体重55kg)。妊娠経過は順調である。Aさんは助産師に「今まで運動習慣はなかったのですが、マタニティビクスを始めたいと思っています。注意することはありますか」と質問した。

助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 「1分間の脈拍が145回を超えないようにしましょう」
2. 「妊娠28週以降に始めましょう」
3. 「午後3時以降に行いましょう」
4. 「毎日運動しましょう」

7 乳幼児のアタッチメント〈愛着〉で正しいのはどれか。

1. 不特定の他者と結ばれる関係である。
2. 他者を遠ざけるために信号行動を行う。
3. 愛着対象を安全基地として探索活動を行う。
4. アタッチメントの形成で人見知りは消失する。

8 在胎 38 週 0 日、2,800 g で出生した日齢 12 の新生児。母乳栄養のみである。  
人工乳の補足の検討が必要な児の状況はどれか。

1. 頻回の溢乳
2. 体重 2,750 g
3. 授乳回数 10 回/日
4. 排便回数 5 ～ 6 回/日

9 生後 4 か月の女児。外傷を主訴に、母親に連れられて救急外来を受診した。2 歳の兄も一緒に来院した。母親は「2 歳の兄と一緒に遊ぼうと腕を引っ張っていた。また、寝返りをしてソファから落ちたようだ」と話す。女児は不機嫌でぐずっている。医師が女児を診察した結果、左上腕内側と右前額部の出血斑、左鎖骨骨折、右肋骨骨折を認めた。

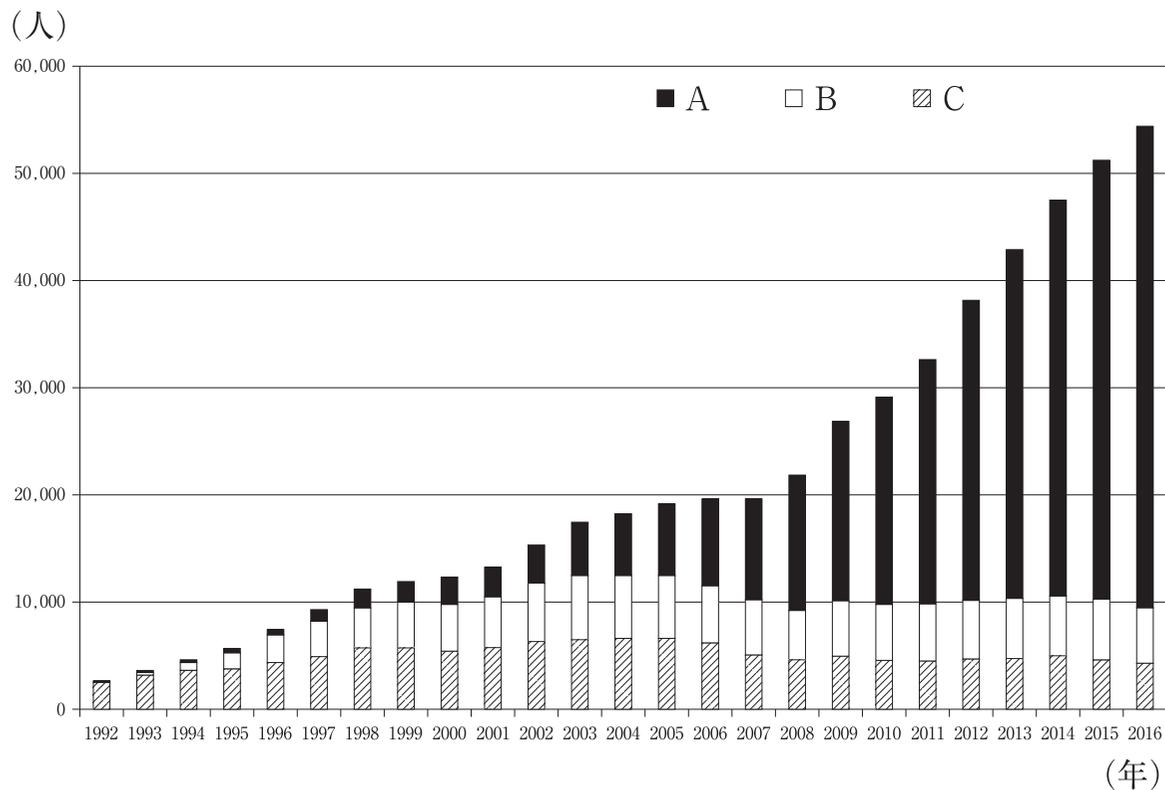
女児の受傷原因で最も考えられるのはどれか。

1. 養育過誤
2. 本人の転落
3. 兄との遊びでの事故
4. 保護者の身体的虐待

10 NICU 入院中の早産児の足底採血を行う際、児の感じる痛みのケアのために行うのはどれか。

1. 経腸栄養投与後に採血する。
2. 23 G 注射針を用いて採血する。
3. 採血前に口腔内に白湯を投与する。
4. 採血前に児の身体をタオルでくるむ。

11 日本における生殖補助医療による出生児数の推移のグラフを示す。



A はどれか。

1. 顕微授精出生児
2. 体外受精出生児
3. 凍結融解胚移植出生児
4. 提供配偶子による出生児

12 助産所における胎盤の取扱いで適切なのはどれか。

1. 助産所の敷地内に埋める。
2. 廃棄数を自治体へ報告する。
3. 産婦の自宅への持ち帰りを許可する。
4. 市町村長の許可を受けた廃棄物収集運搬業者に委託する。

13 Aさん(36歳、初産婦)。産後1か月。体重53kgで、非妊時から2kg減少している。母乳のみで授乳している。Aさんの平均摂取カロリー量は1,950kcal/日であった。

授乳期に推奨される1日当たりの摂取カロリー量にするために、Aさんが増量する必要があるカロリー量で正しいのはどれか。

1. 100 kcal
2. 200 kcal
3. 400 kcal
4. 600 kcal

14 Aさん(17歳、高校生)。母親とともに月経前症候群の相談で産婦人科を受診した。月経周期は30日型で規則的で、月経痛がある時は市販の痛み止めを時々服用している。医師の診察では子宮、卵巣に形態的異常はなかった。Aさんは「月経前の数日間は、いつもイライラして憂鬱な感じがある。授業に集中できず、担任の先生にしばしば注意を受けてしまい、困っている」と助産師に話した。

Aさんへの助産師の助言で適切なのはどれか。

1. 「低用量ピルによる治療の選択肢があります」
2. 「月経開始前から痛み止めを使いましょう」
3. 「月経前は学校を休むようにしましょう」
4. 「月経前の症状は自然に治ります」

15 Aさん(32歳、経産婦)。夫と長女(2歳半)との3人暮らし。妊娠24週2日の妊婦健康診査に実母および長女と3人で来院した。待合室にいるAさんの左腕には、肘を中心に広範囲に包帯が巻かれており、助産師はドメスティック・バイオレンス(DV)を疑った。

助産師の最初の対応で適切なのはどれか。

1. 警察に通報する。
2. Aさんに包帯を巻いている理由を尋ねる。
3. Aさんと1対1で話ができる場所を確保する。
4. Aさんの実母に包帯を巻いている理由を尋ねる。
5. AさんにDVスクリーニングの自記式調査票の記入について説明する。

16 定期予防接種で生後3か月から接種が可能になるのはどれか。

1. 肺炎球菌ワクチン
2. ロタウイルスワクチン
3. 四種混合(DPT-IPV)ワクチン
4. 麻しん風しん混合(MR)ワクチン
5. インフルエンザ菌b型(Hib)ワクチン

17 Aさん(75歳)。性器脱と診断され、ペッサリーの挿入により症状が改善していた。最近、帯下に少量の出血が混じるため産婦人科を受診した。ペッサリーと接する腔壁に浅いびらんがあり、少量出血を認める。超音波検査では子宮、付属器は正常で、子宮頸部の細胞診では異常はない。

出血の改善に有効な腔錠の成分はどれか。

1. イソコナゾール
2. エストリオール
3. プロゲステロン
4. メトロニダゾール
5. クロラムフェニコール

18 Aさん(32歳、初妊婦)。妊娠6週に、四肢と体幹に軽度の隆起を伴う紅色の皮疹が多発しているのが確認された。妊娠前に外陰部の腫瘤を自覚していたが、自然に消失したという。産婦人科で梅毒血清反応と梅毒トレポネーマ抗体血清検査〈TPHA〉を行ったところ、いずれも陽性であった。

Aさんへの治療で正しいのはどれか。

1.  $\gamma$ -グロブリンの投与を行う。
2. ペニシリン系抗菌薬を投与する。
3. 妊娠12週以降に治療を開始する。
4. 陰圧室に隔離して治療を行う必要がある。
5. 梅毒トレポネーマ抗体血清検査〈TPHA〉が陰性となるまで治療を継続する。

19 Aさん(19歳、初妊婦、飲食店勤務)。20歳の会社員Bさんと同居している。Bさんとの間での妊娠が判明して産婦人科で妊婦健康診査を受けていた。Bさんは妊娠を喜んでいて出産を楽しみにしているが、AさんはBさんの家族との関係が悪く、入籍の予定はないと言う。Aさんは産後に1年の育児休業を予定している。

出産に向けた準備を進める上で、助産師が確認する情報で最も重要なのはどれか。

1. 自宅の広さ
2. Aさんの通勤時間
3. Aさんの家族関係
4. 分娩費用の準備状態
5. Aさんの母乳育児の希望

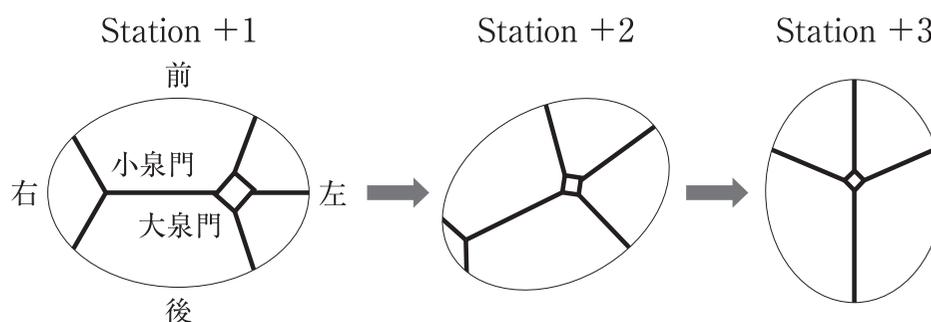
20 29歳の1回産婦。妊娠40週1日。陣痛発来で入院となり、その後破水した。破水時の内診所見は子宮口4cm開大、展退度70%、Station -2で、羊水流出が持続的に認められた。胎児心拍数陣痛図の所見で軽度の変動一過性徐脈が認められ、連続モニタリングを行っていたが、破水から2時間後、突然遷延一過性徐脈が出現し、臍帯脱出が疑われた。

助産師が産婦に対して最初に行うのはどれか。

1. 側臥位への体位変換
2. 羊水流出量の確認
3. 深呼吸の促し
4. 血圧測定
5. 内診

21 分娩進行中の子宮口全開大後の経時的な内診所見を図に示す。

この場合の見頭回旋で正しいのはどれか。



\* 母体の前後左右を記載している

1. 第1前方後頭位
2. 第2前方前頭位
3. 低在横定位
4. 高在縦定位
5. 不正軸進入

22 Aさん(34歳、初産婦)。陣痛発生して、産婦人科に入院した。Aさんは無痛分娩を希望し、硬膜外カテーテルから局所麻酔薬が投与された。その3分後に、Aさんは手のしびれと気分不快を訴えた。頸部に氷を当てたところAさんはあまり冷たくないという。

この時点で直ちに準備するもので優先度が高いのはどれか。

1. 降圧薬
2. 輸血用器材
3. 吸入ステロイド薬
4. 気管挿管のための器材
5. 自動体外式除細動器(AED)

23 42歳の経産婦。既往歴、家族歴に特記すべきことはない。前置胎盤に伴う出血があり、2週間の安静入院後、妊娠37週で帝王切開術となった。手術翌日の子宮底の高さは臍下1横指で、収縮は良好である。術後の初回歩行前に左下腿に浮腫と発赤を認め、その部位に痛みを訴えている。バイタルサインは体温37.0℃、脈拍80/分、血圧120/75 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO<sub>2</sub>)98%(room air)。

優先的に行うのはどれか。

1. 心電図検査
2. 尿定性検査
3. 凝固機能検査
4. 呼吸機能検査
5. 造影CT検査

24 日齢3の正期産児。出生体重3,100g。混合栄養で哺乳は良好だが、哺乳後の非胆汁性嘔吐を1日4、5回認めている。排尿、排便は良好である。本日の体重は2,850gで腹部膨満を認め、医師の診察の結果、胃軸捻転の疑いと診断されている。

児の日常のケアの際の助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 上体の挙上
2. 糖水の投与
3. 人工乳の増量
4. 腹部マッサージ
5. おしゃぶりの使用

25 正期産児に発症した胎便吸引症候群の合併症で注意するのはどれか。

1. 壊死性腸炎
2. 動脈管開存症
3. 気管支肺異形成
4. 胎便関連性腸閉塞
5. 新生児遷延性肺高血圧症

26 生後12時間の新生児。在胎32週1日、出生体重1,700gで出生した。保育器内で経鼻的持続気道陽圧呼吸療法<CPAP>(吸入酸素濃度25%)を開始し、輸液管理中である。バイタルサインは、体温(腋窩温)36.5℃、呼吸数65/分、心拍数160/分、血圧50/32mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度<SpO<sub>2</sub>>94%であった。また、血糖値は60mg/dLであった。

現在の児の状態の評価で正しいのはどれか。

1. 頻脈
2. 多呼吸
3. 低血圧
4. 低体温
5. 低酸素血症

27 機能性月経困難症で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 周期性の痛みがある。
2. 30歳以降の発症が多い。
3. 子宮内膜症が関与している。
4. 月経が始まると症状が消失する。
5. レボノルゲストレル放出子宮内システム(LNG-IUS)で症状が緩和する。

28 胎児期における男性化の性分化で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. ウォルフ管が退縮する。
2. SRY 遺伝子の発現が必要である。
3. アンドロゲン作用が抑制されている。
4. 抗ミューラー管ホルモンが作用する。
5. 外性器の形成は胎生2か月で完了する。

29 33歳の女性。卵管因子による不妊のため1年前から治療を開始し、今回初めて体外受精—胚移植(IVF-ET)を受けることになった。

女性への治療方法の説明で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 「移植する胚は1個です」
2. 「胚は卵管内に移植します」
3. 「卵子の採取には腹腔鏡を使用します」
4. 「成熟卵胞を穿刺して卵子を採取します」
5. 「顕微鏡下で精子を卵子に注入し受精させます」

30 妊娠による母体の生理学的変化で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 血清アルブミン値は上昇する。
2. 血中尿素窒素は低下する。
3. 凝固機能が抑制される。
4. 心拍出量が増える。
5. 腹式呼吸になる。

31 妊娠中期以降の胎児の発育・発達で、羊水の存在が重要なのはどれか。2つ選べ。

1. 肺の成熟
2. 腎機能の発達
3. 消化管の発達
4. 骨髄造血の増加
5. 副腎皮質の発育

32 分娩進行中の子宮の変化で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 外子宮口が後方に移動する。
2. 子宮峡部は伸展して薄くなる。
3. 子宮頸部は下方から開大・短縮する。
4. 子宮洞筋部の収縮は娩出の原動力となる。
5. 組織学的子宮口の位置に生理的収縮輪が形成される。

33 Aさん(28歳、初産婦)。昨日3,680gの児を吸引分娩で出産し、分娩2時間後に導尿し300mLの排尿があった。現在分娩後8時間が経過しているが自然排尿がなく、Aさんは助産師に「トイレに行きたい感じがしないです」と話した。

Aさんへの助産師の対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 骨盤底筋の体操を指導する。
2. 水分摂取量を確認する。
3. トイレで自然排尿を試みるよう促す。
4. 導尿する。
5. 尿意を感じるまで様子を見て良いと伝える。

34 平成28年(2016年)の日本の母子保健統計で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 合計特殊出生率は1.44である。
2. 妊産婦死亡率は前年より減少している。
3. 人工死産率よりも自然死産率の方が高い。
4. 年齢別の出生率で最も高いのは25～29歳である。
5. 新生児死亡の原因は「周産期に特異的な呼吸障害、および心血管障害」が最多である。

35 児童福祉法で規定しているのはどれか。2つ選べ。

1. 子の看護休暇
2. 乳幼児健康診査
3. 乳児家庭全戸訪問事業
4. 地域子育て支援拠点事業
5. 母子健康包括支援センター

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

A さん(38歳、初産婦)。妊娠26週3日。身長160cm、体重64kg(非妊時体重60kg)。本日の75gOGTTで負荷前105mg/dL、1時間値190mg/dL、2時間値160mg/dLであり、妊娠糖尿病と診断された。

36 Aさんの行う血糖コントロールで適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 1日1回の自己血糖測定をする。
2. 食前の目標血糖値を100mg/dL以下とする。
3. 食後2時間の目標血糖値を150mg/dL以下とする。
4. 妊娠中に減量をする。
5. 1日摂取エネルギー量を1,800kcalとする。

37 妊娠39週3日。Aさんは、破水後に来院し、入院した。羊水混濁なし。児は頭位、推定胎児体重3,600g。2時間後に自然に陣痛発来し、分娩は順調に経過した。入院から8時間後に児頭は娩出されたが、肩甲が引っかかり娩出されない。

この時のAさんへの助産師の対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 子宮底圧迫法を行う。
2. 児頭を下方に牽引する。
3. 恥骨結合の上から肩甲を押す。
4. McRoberts〈マックロバーツ〉体位をとる。
5. 指を児の腋窩に入れ腕を解出する。

38 児は無事に出生した。出生体重 3,800 g。Apgar〈アプガー〉スコアは 1 分後 8 点、5 分後 10 点。生後 1 時間、児のバイタルサインは直腸温 36.8℃、呼吸数 55/分、心拍数 150/分。経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉98%(room air)であり、診察上明らかな異常所見は認めなかった。

この児に注意すべき合併症はどれか。

1. 低血糖
2. 低体温
3. 頭蓋内出血
4. 新生児一過性多呼吸
5. 先天性甲状腺機能低下症

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

A さん(33 歳、初産婦)。30 歳で甲状腺機能亢進症を発症し、Basedow〈バセドウ〉病の診断により甲状腺亜全摘術を受け、レボチロキシンの内服を継続していた。A さんは無月経を主訴に産婦人科を受診して、妊娠 6 週相当と診断された。また、診察で子宮体部の筋層内に複数の子宮筋腫が指摘されて子宮体部全体は新生児頭大であった。

39 医師の診察後に A さんは「子宮筋腫ができていてはなんて知りませんでした。妊娠や出産にどのような影響がありますか」と助産師に聞いた。

助産師が行う A さんへの説明で正しいのはどれか。

1. 「胎児の先天異常のリスクが増加します」
2. 「出産後に子宮全摘出術が必要です」
3. 「妊娠糖尿病になりやすくなります」
4. 「子宮破裂を生じやすくなります」
5. 「切迫早産が生じやすくなります」

40 その後の妊娠経過は順調で、血液検査では甲状腺機能は正常範囲であった。妊娠 34 週の妊婦健康診査の超音波検査で胎児の甲状腺の腫大が確認された。産科医師から A さんに、出産後に児の甲状腺機能亢進症が生じる可能性が告げられた。診察後に A さんは助産師に「私のバセドウ病は落ち着いているのに、どうして赤ちゃんの甲状腺機能が異常になるのでしょうか」と訴えた。

A さんの児の甲状腺機能亢進症が生じる原因で正しいのはどれか。

1. ヒト絨毛性ゴナドトロピン
2. 甲状腺切除手術の既往
3. レボチロキシンの内服
4. 自己抗体の胎盤通過
5. 胎児の甲状腺癌

41 妊娠 38 週 0 日に陣痛発来し、A さんは入院となった。入院後 12 時間の経過で子宮口が全開し、その後 4 時間で分娩となった。児は 3,650 g の男児で、Apgar 〈アプガー〉スコア 1 分後 9 点、5 分後 9 点である。胎盤は児の娩出の 5 分後に自然娩出となった。その後も出血が持続しており、胎盤娩出後 5 分間の出血量は 450 mL となった。医師による診察が行われているが原因が特定できていない。A さんは意識清明で、バイタルサインは脈拍 85/分、血圧 120/75 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉98 % (room air) である。

この時点での A さんへの対応で最も優先されるのはどれか。

1. 飲水を促す。
2. 酸素を投与する。
3. 末梢静脈を血管確保する。
4. 側臥位への体位変換を促す。
5. 弾性ストッキングの着用を勧める。

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

A さん(36 歳、初妊婦、会社員)。現在、妊娠 14 週 3 日。昨夜、少量の性器出血があったため、家族とともに外来受診した。身長 165 cm、体重 57.0 kg (非妊時体重 56.5 kg)。血圧 126/68 mmHg。Hb 11.5 g/dL、Ht 33.2 %。尿蛋白(－)、尿糖(－)。下肢浮腫(－)、下肢に静脈瘤を認めるが痛みはない。既往歴は特にない。

42 胎児心拍数 150 bpm、下腹部痛の自覚なし。診察後に絨毛膜下血腫を指摘され、医師からなるべく安静にするように言われた。A さんは「安静の必要性について上司にどのように伝えればいいですか」と助産師に相談した。

A さんへの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 家族から説明してもらうように提案する。
2. 助産師が上司に電話で説明することを伝える。
3. 母子健康手帳を使って説明するように伝える。
4. 母性健康管理指導事項連絡カードの利用を提案する。

43 妊娠 32 週。妊婦健康診査で特に異常はなかった。A さんは助産師に「被用者保険に加入していますが、これから出産準備に入って仕事ができないと、収入がなくなりますよね。収入がなくなるのはとても困ります」と不安そうにしている。

産前休業取得中に A さんが支給の対象となるのはどれか。

1. 出産育児一時金
2. 出産手当金
3. 育成医療
4. 出産扶助

44 Aさんは妊娠41週5日、妊婦健康診査のために病院を受診した。超音波検査で推定胎児体重2,600g、AFI5で羊水量の減少が確認された。胎児心拍数陣痛モニタリングではリアクティブパターンであった。体温36.5℃、脈拍60/分、血圧130/78mmHg。尿蛋白(-)、尿糖(-)。医師からAさんは分娩誘発のための入院を勧められたが「分娩誘発のために入院になるなんて思いもよらなかった。入院しないでいたらどんなことが起きてくるのですか」と助産師に尋ねた。

Aさんの分娩で特に予測されるのはどれか。

1. 常位胎盤早期剝離
2. 胎児機能不全
3. 子宮内感染
4. 肩甲難産
5. 弛緩出血

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

A さん(32 歳、初産婦)。妊娠経過は順調であった。妊娠 39 週 5 日で 3,420 g の女児を吸引分娩で出産した。分娩所要時間 20 時間 50 分、破水から分娩までの所要時間 1 時間 30 分。分娩時出血量 450 mL。正中側切開術が施行された。

45 分娩後 5 時間。体温 37.4℃、脈拍 88/分、血圧 100/74 mmHg。子宮底の高さ臍高、子宮底は硬く触れる。赤色悪露中等量、後陣痛軽度。会陰縫合部の発赤(一)、腫脹軽度、発汗がみられ、口渇を訴える。

この時点の A さんのアセスメントで適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 口渇は耐糖能の異常によるものである。
2. 出血多量による頻脈がみられている。
3. 自然に正常体温に戻る可能性が高い。
4. 会陰縫合部の感染が疑われる。
5. 子宮復古は良好である。

46 産褥 3 日。母児同室となり、A さんは頻回に授乳を行っている。児の体重は 3,300 g。排便(移行便) 3 回/日、排尿 5 回/日。活気があり吸啜良好である。A さんは「授乳のコツもわかってきましたが、昨晚も眠れなかったので疲れてきました」と言う。

A さんへの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 「ミルクを足しましょう」
2. 「このまま頑張りましょう」
3. 「授乳の回数を減らしましょう」
4. 「一時的に赤ちゃんを預かりましょう」

47 産褥4日。Aさんは、明日退院の予定となった。Aさんは「赤ちゃんの世話にもやっと慣れてきました。赤ちゃんはかわいいです。出産後に助産師さんとお産のことを話した時は、よく頑張ったねと言ってもらえました。でも出産に時間がかかり吸引分娩になるとは思いませんでしたし、傷がまだ痛いです。私はちゃんとしたお産ができなかったのではないかと思います」と言う。

Aさんへの助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 「よく頑張ったのだから立派なお産ですよ」
2. 「無事にお産が終わったことを喜びましょう」
3. 「もう一度、お産の振り返りをしてみませんか」
4. 「新生児訪問でお産の話を聞いてもらってください」

次の文を読み 48～50 の問いに答えよ。

A さん(34 歳、初妊婦)。産婦人科に通院し、妊婦健康診査を受けていた。妊娠 30 週 0 日に規則的な子宮収縮を自覚して来院し、緊急入院となった。バイタルサインは、体温 38.0℃、呼吸数 24/分、脈拍 100/分、血圧 130/80 mmHg。胎児心拍数モニタリングで胎児心拍基線 170 bpm であった。内診所見では、頭位、子宮口 2 cm 開大、未破水。膣分泌物に少量血液が混じっており、悪臭を伴っていた。血液検査は、白血球数 18,000/ $\mu$ L、CRP 3.0 mg/dL。尿検査では尿混濁はなく、尿蛋白(－)、尿糖(－)であった。

48 入院時のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 絨毛膜羊膜炎が疑われる。
2. 子宮頸管縫縮術が有効である。
3. 妊娠高血圧症候群〈HDP〉である。
4. 妊娠の延長を目指す必要がある。

49 A さんは入院翌日、経膣分娩で男児を出産した。羊水混濁は認めなかった。出生直後の児は啼泣を認めるが、呼吸数 60/分、心拍数 140/分。鼻翼呼吸、呻吟、陥没呼吸、中心性チアノーゼを認め、マスクを用いた持続的気道陽圧呼吸療法〈CPAP〉が行われた。しかし、努力呼吸とチアノーゼに改善が認められず、気管挿管による人工呼吸が開始された。

児の状況で最も考えられるのはどれか。

1. 喉頭軟化症
2. 肺動脈閉鎖症
3. 呼吸窮迫症候群
4. 胎便吸引症候群

50 児はNICUに入院となり、保育器内で人工呼吸器管理、輸液管理が行われている。分娩後6時間、Aさんは会陰切開部の創部痛のため非ステロイド性消炎鎮痛薬を使用しており、車椅子で児の面会のためにNICUを訪れた。Aさんは「赤ちゃんが心配です」と話し、涙を流している。

助産師のAさんへの声かけで正しいのはどれか。

1. 「赤ちゃんの状況はご主人から聞いてください」
2. 「両手でお子さんを包み込んであげてください」
3. 「大きな声で呼びかけてあげてください」
4. 「鎮痛薬使用中は搾乳を控えてください」

次の文を読み 51～53 の問いに答えよ。

A さん(37 歳、初産婦、正社員)。夫と 2 人暮らし。6 か月前に B 市に引っ越してきた。B 市では、子育て世代包括支援センターに助産師の母子保健コーディネーターを配置し、妊娠初期から育児期まで継続して支援を行っている。A さんは、妊娠 30 週の時に、育児準備教室を受講するために子育て世代包括支援センターを訪れた。受講後、A さんは母子保健コーディネーターと面談し「私の母は父の看病をしているので、産後の手伝いは頼めません。出産後は夫と 2 人で頑張っけて子育てをする予定です」と話している。

51 母子保健コーディネーターが A さんの子育て支援ケアプランを作成するにあたり、優先して情報収集する項目はどれか。

1. 育児用品の準備状況
2. 夫の職場の子育て世帯への協力体制
3. 保育所への入所に関する疑問の有無
4. B 市の母子保健サービスの把握状況

52 A さんは、妊娠 34 週から産前休業を取得した。A さんは子育て世代包括支援センターを訪問し「産前休業に入る時に、上司から他の人を雇いたいのので産後休業が終わったら早めに辞めてもらいたいと言われました。それ以来、気持ちが落ち込んでいます。私は、仕事を辞めたくありません」と話している。

この時の母子保健コーディネーターの A さんへの対応で適切なのはどれか。

1. 産婦人科医に相談するよう勧める。
2. 婦人相談所に相談するよう勧める。
3. 法律上仕事は辞めさせられないことを伝える。
4. 仕事と育児を両立するための講演会への参加を勧める。

53 Aさんは、妊娠38週に帝王切開術で男児を出産した。産後は母子ともに順調に経過した。1か月健診の1週間後、Aさんから母子保健コーディネーターに電話があり「出産後1か月は夫が育児休業を取って手伝ってくれたのですが、今は、夫は仕事が忙しくて帰りが遅く、私1人で赤ちゃんの世話と家事をすべてやらなければなりません。夜もほとんど寝ることができません」と話している。

母子保健コーディネーターの対応で最も適切なのはどれか。

1. 産婦人科の受診を勧める。
2. 地区担当の保健師と連携する。
3. 実母へ家事支援を依頼するよう促す。
4. ファミリーサポートセンターの利用を勧める。

次の文を読み 54、55 の問いに答えよ。

A さん(16 歳、女子)。高校 1 年生の 1 月に月経異常を主訴に母親と産婦人科を受診した。

現病歴：4 か月前(9 月頃)から月経がない。

月経歴：初経 13 歳、1 年前までの月経周期 27 日、期間 4～5 日。

既往歴：なし。

生活歴：高校入学後憧れていた新体操部に入部し、試合のメンバーに選ばれることを目標に早朝と放課後に練習を続けている。学校の欠席はない。朝夕の食事は家族と摂り、昼食は学生食堂を利用している。

家族歴：父、42 歳、会社員、健康。母、40 歳、会社員、健康。妹、13 歳、中学 1 年生、健康。

身体所見：第二性徴の発現年齢は正常。

身長 160 cm、体重 41 kg(高校入学時から 10 kg 減少)。妊娠反応陰性。

54 現在の A さんの状態で考えられるのはどれか。

1. 過少月経
2. 希発月経
3. 遅発月経
4. 続発性無月経

55 診察室で A さんは「部活の練習は楽しいです。先輩たちはみなスタイルがよく、太りたくないなので食事の量を減らしています」と話した。

A さんの月経異常の要因をアセスメントするために最も重要な情報はどれか。

1. 現在のボディイメージ
2. 部活動の人間関係
3. 部活動の日数
4. 睡眠時間





